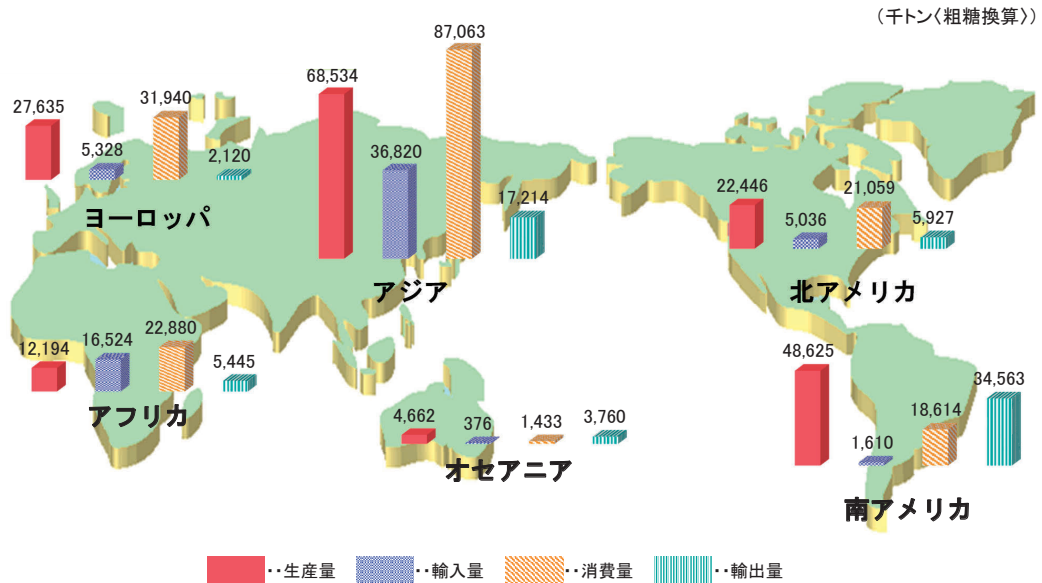


砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給 (2020年12月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2020/21年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International [Quarterly Statistical Update, December 2020]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

| 年度 | 期首在庫量 | 生産量 | 輸入量 | 消費量 | 輸出量 | 期末在庫量 | 期末在庫率 |
|-------------------------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 1990/91 | 31,180 | 114,134 | 26,729 | 106,623 | 28,254 | 37,165 | 34.9 |
| 1995/96 | 44,812 | 122,392 | 33,811 | 116,115 | 36,615 | 48,284 | 41.6 |
| 2000/01 | 64,678 | 130,768 | 38,567 | 131,079 | 40,945 | 61,989 | 47.3 |
| 2005/06 | 57,700 | 151,186 | 47,535 | 150,003 | 50,013 | 56,404 | 37.6 |
| 2010/11 | 50,664 | 166,769 | 54,668 | 165,768 | 58,206 | 48,128 | 29.0 |
| 2015/16 | 73,842 | 175,955 | 67,776 | 178,675 | 69,077 | 69,822 | 39.1 |
| 2016/17 | 69,822 | 180,387 | 70,759 | 181,369 | 71,288 | 68,310 | 37.7 |
| 2017/18 | 68,310 | 195,657 | 65,883 | 180,835 | 67,706 | 81,309 | 45.0 |
| 2018/19 | 81,309 | 186,544 | 61,425 | 183,858 | 61,689 | 83,730 | 45.5 |
| 2019/20 | 83,730 | 181,827 | 69,004 | 180,682 | 70,355 | 83,524 | 46.2 |
| 2020/21 (2020年9月予測) | 84,771 | 184,534 | 63,871 | 180,040 | 69,411 | 83,725 | 46.5 |
| 2020/21 (2020年12月予測) | 83,524 | 184,096 | 65,695 | 182,990 | 69,028 | 81,297 | 44.4 |

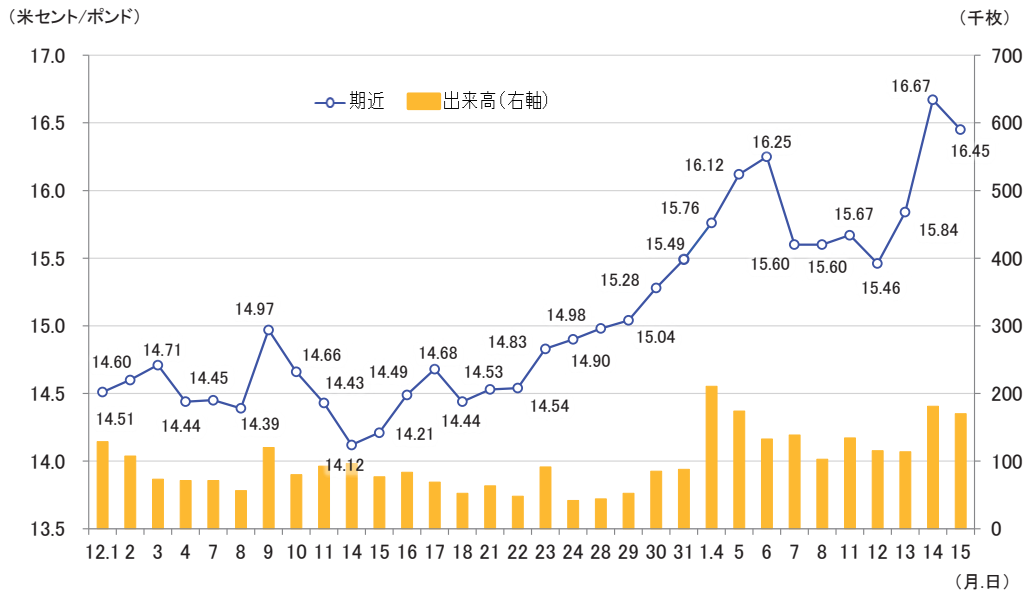
資料：LMC International [Quarterly Statistical Update, December 2020]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2018/19年度および2019/20年度の数値は推定値、2020/21年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（12/1～1/15）

～12月は14セント台で推移するものの、その後は16セント台まで急騰～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年12月の推移を見ると（3月限）、1日は前月末の原油価格の下落（注1）とリアル安（注2）に引きずられ、値を下げた前日と変わらず1ポンド当たり14.51セント（注3）を付けた。3日はリアルが米ドルに対して4カ月ぶりの高値を付けたことで、同14.71セントまで上昇したものの、4日は11月のブラジル産砂糖の輸出量が前年から大幅に増加したとの報道を受け、同14.44セントと値を下げた。9日はインドネシア政府が砂糖の次期割当量について近日中に発表するとの見方が市場に広まり、同14.97セントと反発したものの、その後は世界的な増産見通しを受けて反落し、11日は同14.43セント、14日は同14.12セントまで値を下げた。17日はブラジルサトウキビ産業界協会（UNICA）が、今年の干ばつにより、2021/22年度の同国産砂糖の減産見通しを発表し

たことを受け、3日連続で続伸して同14.68セントまで上昇した。18日はブラジルのサトウキビ生産地の降雨予報を受けて、同14.44セントと値を下げた。21日は主要消費国であるインドネシアの製糖業界団体により、実需の増加を背景に、今後消費が伸びるとの見込みが発表されたことを受け、同14.53セントと緩やかに上昇した。23日はブラジルでの降雨減少による砂糖の減産懸念から、同14.83セントと価格を押し上げた。24日は中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が報告した11月の砂糖輸入量が、前年同月比114%増であったことが報じられたことで、中国での需要拡大予測を受け、同14.90セントと上昇し、31日にはインドネシアや中国の堅調な砂糖需要を受けて、同15.49セントと高値を伸ばした。

明けて2021年1月4日は、アジアからの堅調な

砂糖需要に加えて、引き続き世界的に砂糖の供給がひっ迫するとの見通しに支えられ、前月からの流れを引き継いで、同15.76セントと高値を付けた。6日は世界最大級の砂糖トレーダーが、2020/21年度に500万トン、2021/22年度に600万トンの砂糖不足の予測を発表したことなどから、世界的に砂糖の供給がひっ迫するとの見方が強まり、3年半ぶりの高値となる同16.25セントを付けた。7日はレアルが対ドルで1カ月半ぶりの安値となったことから、同15.60セントと急落した。13日はUNICAが、2020年12月後半のブラジル中南部での減産（前年同期比13.7%減）を発表したことなどから、同15.84セントと上昇した。14日は世界的な砂糖の供給ひっ迫の見通しから、砂糖の先物買いが活発化し、同16.67セントと急騰し、3年半ぶりに高値を更新した。15日はレアル安と原油価格の下落などを受けて、同16.45セントと下落した。

(注1) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが安くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が上昇すると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2021年1月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年12月末日TTS相場の値であり、1インドルピー=1.57円である。

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：871万ha（前年度比1.2%増）

生産量：6億6000万トン（同2.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4485万トン（同41.0%増）

輸出量：3395万トン（同67.1%増）

2020/21年度の砂糖生産量、輸出量は、ともに大幅増の見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2021年1月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感

があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」^(注1)の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、871万ヘクタール（前年度比1.2%増）とわずかに増加すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億6000万トン（同2.7%増）とわずか

に増加すると見込まれる。

一方、砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られることから、4485万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同41.0%増）と大幅な増産が見込まれる。この予測の下、ブラジルレアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3395万トン（同67.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

バイオエタノール製造業者の65%が炭素排出権の認証を取得

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）は2020年12月15日、全国のバイオエタノール製造業者のうち65%（同国のバイオエタノール生産量の85%を占める）が、再生可能エネルギー政策「RenovaBio」に基づき、炭素排出権（以下「排出権」）の認証を受けていることを発表した^{（注2）}。同政策では、石油会社などが石油を販売する際、その販売量を基に算出される二酸化炭素排出量に応じた

排出権を、バイオ燃料製造業者から購入することが義務付けられており、排出権の販売は、ブラジル石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）の認証を受けたバイオ燃料製造業者に限定され、バイオ燃料の生産量に応じた排出権が付与されている。

2020年12月11日現在、既に1700万クレジットを超える排出権が付与され、そのうちの80%以上が石油会社などによって購入されているが、UNICAは、2020年12月末までに1800万クレジットの排出権が付与されると推計しており、2021年3月末までに2300万クレジットに達する可能性があるとしている^{（注3）}。

（注1）温室効果ガス排出量の抑制などを目的として、2019年末に施行。

（注2）認証を取得しているバイオ燃料製造業者数は、バイオエタノール製造所：215事業所、バイオディーゼル製造所：22事業所、バイオメタン製造業者：1事業所となっている。

（注3）1クレジットは二酸化炭素換算で1トン相当の排出権となっている。2020年9月、COVID-19による燃料需要の減少を受けて、2020年における排出権の取引目標値は、1450万クレジットと、当初目標から50%引き下げられていた。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

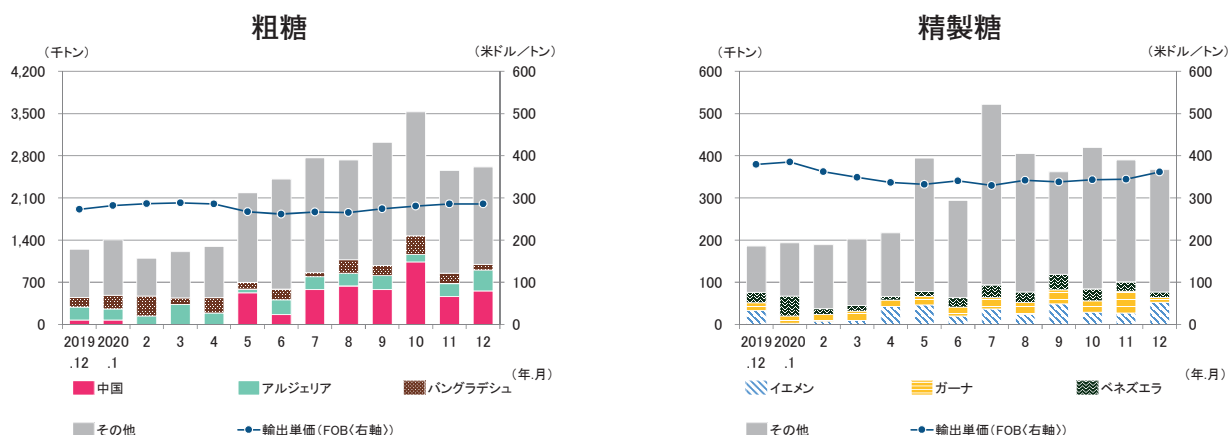
（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (12月予測) | 2020/21 (1月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|-----------|---------|---------|---------|--------------------|-------------------|---------------|----------|
| サトウキビ収穫面積 | 8,617 | 8,649 | 8,599 | 8,726 | 8,706 | 1.2% | |
| サトウキビ生産量 | 641,066 | 620,832 | 642,677 | 658,000 | 660,000 | 2.7% | |
| 砂糖 | 生産量 | 41,517 | 31,225 | 31,804 | 44,794 | 44,845 | 41.0% |
| | 輸入量 | 2 | 3 | 2 | 3 | 3 | 28.4% |
| | 消費量 | 10,852 | 10,635 | 10,812 | 11,321 | 11,321 | 4.7% |
| | 輸出量 | 31,026 | 21,017 | 20,321 | 33,903 | 33,954 | 67.1% |
| | 期末在庫量 | 663 | 239 | 912 | 485 | 485 | ▲ 46.8% |
| | 期末在庫率 | 1.6 | 0.8 | 2.9 | 1.1 | 1.1 | 1.9ポイント減 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量 (累計) 上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 473万ha (前年度比6.5%増)

生産量: 3億9338万トン (同13.6%増)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量: 3375万トン (同14.7%増)

輸出量: 842万トン (同4.2%増)

2020/21年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量はやや増加する見込み

2020/21年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた昨年度からの反動で、473万ヘクタール (前年度比6.5%増) とかなりの程度増加すると見込まれる (表3)。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期 (6～9月) における降雨が順調であることから、ダムの水位回復により、サトウキビ生産量は3億9338万トン (同13.6%増)、砂糖生産量も3375万トン (同14.7%増) といずれもかなり大きく増加すると見込まれる。輸出補助金の発表や粗糖の国際価格の堅調な推移、国内の砂糖価格の下落などを受けて、製糖業者は砂糖輸出を促進すると見られ、輸出量は842万トン (同4.2%増) とやや増加すると見込まれる。

輸出補助金と先物相場の高水準が、2021年1月～3月の輸出を促進

インド政府は、砂糖の輸出奨励補助金の交付を2020年12月16日付けで閣議決定した。この決定により、10月1日から始まった2020/21年度においては、輸出量600万トンを上限に約3500万ルピー (5495万円)、1トン当たり5833ルピー (9158円) の補助金が交付されることとなった。インドの製糖業者は余剰在庫を抱える一方で、サトウキビ農家へのサトウキビ代金の支払遅延が発生するなど慢性的な資金不足に陥っている中、同国政府は輸出補助金の交付により、在庫圧縮と円滑な代金支払を促進するとしている。

2021年1月8日付けの報道によると、この輸出補助金に加え粗糖先物相場が3年半ぶりの高水準に達していることから、インドの製糖業者は積極的に砂糖の輸出契約を締結しており、関係者の話として、2021年1月から3月までの出荷分として、主にイ

インドネシア、スリランカ、アフガニスタン、アフリカ諸国へ合計150万トンの砂糖を輸出する契約に合意している、と伝えている。従来、インドネシアでは輸入品の過半をタイ産が占めていたが、インド産の輸入に当たり、2019年7月にASEAN・インド自由貿易協定に基づき、インドネシア産パーム油の市場アクセス改善と引き換えに、インド産砂糖の

関税率を5%に引き下げた他、2020年初頭から輸入精度基準を緩和し、タイ産砂糖と競争条件を同一にしていた。

この積極的な輸出契約により、世界第2位の砂糖生産量を誇るインドが、国内在庫量を減らし、なおかつ、供給過剰によって下落してきた国内の砂糖価格を押し上げると言われている。

表3 インドの砂糖需給の推移

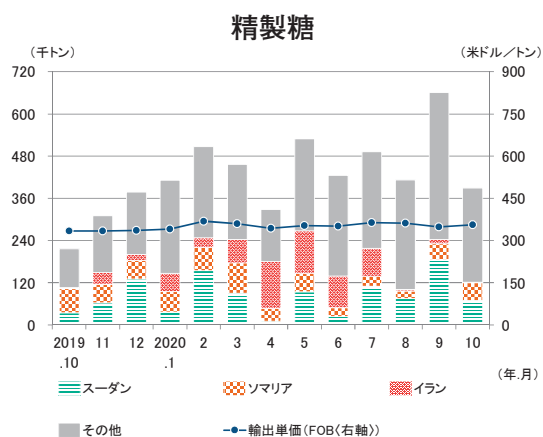
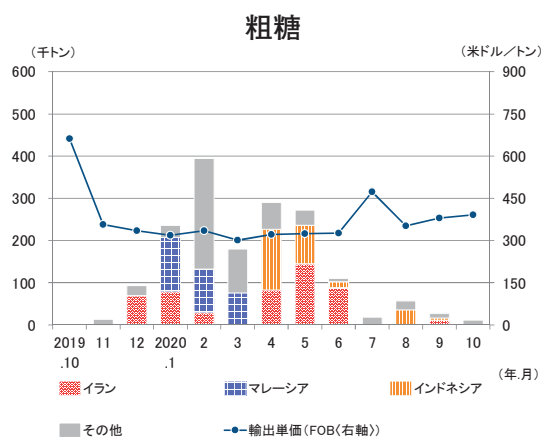
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (12月予測) | 2020/21 (1月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|-----------|---------|---------|---------|--------------------|-------------------|---------------|----------|
| サトウキビ収穫面積 | 4,794 | 4,960 | 4,441 | 4,731 | 4,731 | 6.5% | |
| サトウキビ生産量 | 404,399 | 404,528 | 346,431 | 393,379 | 393,379 | 13.6% | |
| 砂糖 | 生産量 | 35,043 | 35,798 | 29,437 | 33,750 | 33,750 | 14.7% |
| | 輸入量 | 2,308 | 664 | 1,687 | 2,160 | 1,944 | 15.2% |
| | 消費量 | 27,421 | 27,540 | 27,007 | 28,323 | 28,322 | 4.9% |
| | 輸出量 | 2,361 | 5,504 | 8,081 | 6,955 | 8,424 | 4.2% |
| | 期末在庫量 | 11,522 | 14,940 | 10,976 | 11,677 | 9,924 | ▲9.6% |
| | 期末在庫率 | 38.7 | 45.2 | 31.3 | 33.1 | 27.0 | 4.3ポイント減 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比1.6%減）

生産量：7360万トン（同3.5%減）

【てん菜】

収穫面積：23万ha（同8.8%増）

生産量：1238万トン（同13.6%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1135万トン（同0.9%増）

輸入量：677万トン（同1.5%増）

2020/21年度の輸入量は、わずかに増加する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、雲南省では面積の増加がみられるものの、広西チワン族自治区と広東省での面積減少を受けて、116万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわずかに減少すると見込まれ、サトウキビ生産量も、7360万トン（同3.5%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。

また、同年度のてん菜の収穫面積は、内モンゴル自治区において、てん菜の買い取り価格が引き上げられたことから、生産者は作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同8.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれ、てん菜生産量も、単収の増加に伴い、1238万トン（同13.6%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、1135万トン（同0.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸入量は、ブラジル産砂糖の輸入量が11月から12月にかけて減少したものの、依然として高水準にあることなどから、677万トン（同1.5%増）とわずかに増加すると見込まれる。

2020年の液糖輸入量、前年から大幅に増加

2021年1月4日付けの現地報道によれば、2020年1月～11月の液糖の輸入量は97万1600トンとなり、前年の年間輸入量の5.8倍に達した。

液糖は主にタイ、マレーシア、ベトナムから輸入されており、これら3カ国はASEAN加盟国であるため、中国ASEAN自由貿易協定に基づいて、2019年から液糖を無税で中国に輸出することが可能となっている。この状況に対し中国糖業協会は、無関税で安価な液糖の輸入量の急増は、国内の砂糖産業に悪影響を及ぼすとして、2020年12月1日、「本協会の傘下企業の一部に、砂糖の輸入関税^(注1)を回避するために、海外の工場で生産した液糖を輸入している者がいる」と指摘した上で、液糖の海外での生産、輸入、流通および使用を行わないよう要請していた。また、中国国務院関税税則委員会は2020年12月23日に発表した「2021年輸入暫定税率等の調整案」の中で、既存のHSコード（1702.90^(注2)）を細分化し、新たに1702.90-11の関税分類コードを液糖に割り当て、30%または80%の輸入関税を2021年1月1日から賦課するとした。しかし、現時点（2021年1月20日現在）において、2021年におけるASEAN加盟国原産の液糖の関税率は変更されておらず、今後の動向が注目される。

(注1) 中国における砂糖の輸入関税は、50%（HSコード：1701.14、1701.99など）。なお、モーリシャス産砂糖の輸入関税のみ、15%。

(注2) 香料または着色料が添加されていない糖水のほか、人造はちみつ（天然はちみつを混合してあるかないかを問わない）、カラメルなどが分類される。

表4 中国の砂糖需給の推移

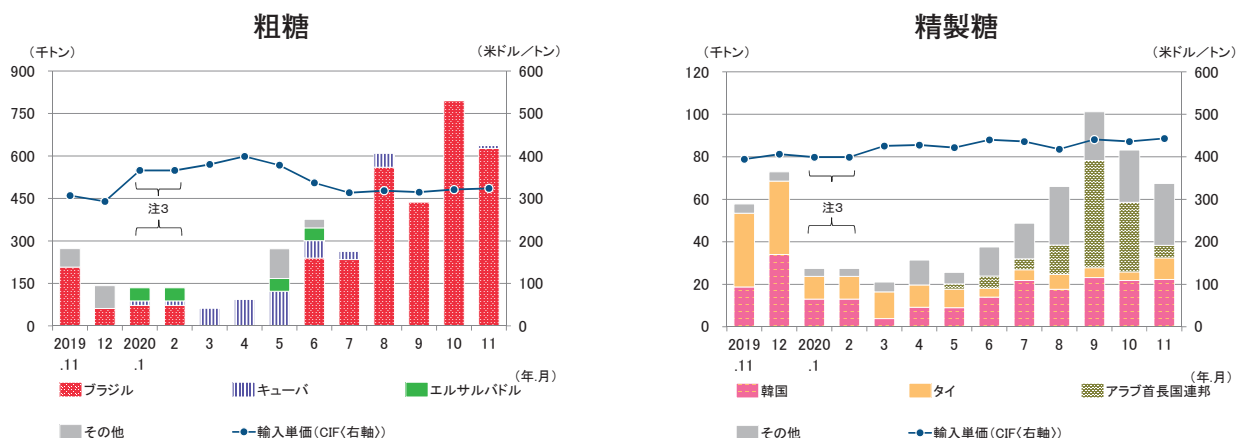
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (12月予測) | 2020/21 (1月予測) | 前年度比 (増減率) |
|-----------|---------|---------|---------|--------------------|-------------------|---------------|
| サトウキビ収穫面積 | 1,231 | 1,219 | 1,176 | 1,157 | 1,157 | ▲ 1.6% |
| サトウキビ生産量 | 76,780 | 78,590 | 76,231 | 73,600 | 73,600 | ▲ 3.5% |
| てん菜収穫面積 | 186 | 243 | 213 | 231 | 231 | 8.8% |
| てん菜生産量 | 9,590 | 11,670 | 10,900 | 12,380 | 12,380 | 13.6% |
| 砂糖 | 生産量 | 11,147 | 11,640 | 11,258 | 11,354 | 0.9% |
| | 輸入量 | 6,033 | 5,053 | 6,667 | 6,750 | 1.5% |
| | 消費量 | 16,414 | 16,522 | 16,305 | 16,631 | 2.0% |
| | 輸出量 | 182 | 210 | 192 | 201 | 4.9% |
| | 期末在庫量 | 11,273 | 11,233 | 12,662 | 13,972 | 10.2% |
| | 期末在庫率 | 67.9 | 67.1 | 76.8 | 83.0 | 82.9 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署(日本の税関に相当する組織)が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：147万ha(前年度比2.8%減)

生産量：9976万トン(同9.1%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1527万トン(同9.9%減)

輸出量：134万トン(同6.6%減)

2020/21年度の輸出量は、砂糖減産を受けかなりの程度減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は147万ヘクタール(前年度比2.8%減)とわずかに減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、EU最大のてん菜生産国であるフランスで感染が広がる^{いおう}萎黄病の被害を受けて、前月予測からは

上方修正されたものの、9976万トン(同9.1%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。

てん菜生産量の落ち込みを受け、砂糖生産量は1527万トン(同9.9%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量は砂糖の減産に伴い、134万トン(同6.6%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。

欧州委員会、砂糖の中期的需給見通しを発表

欧州委員会は2020年12月16日、砂糖を含む農畜産物の中期的需給見通しを公表した。これによると、てん菜の単収は1ヘクタール当たり72トン（2018～2020年の平均値）から、2030年には同75トンまで増加すると見込まれている。てん菜農家の経営状況は、単収の増加と砂糖価格のわずかな上昇によって改善が見込まれ、今後のてん菜栽培面積は140万ヘクタール程度で安定的に推移すると予測されている。また、安定的な栽培面積と単収増加の見通しを受けて、2030年の砂糖生産量は1620万トン（精製糖換算。2020年：1590万トン、同年対比1.9%増）と見込まれている。一方で砂糖消費量は、健康志向の持続などを背景に平均年率

0.4%で減少し、2030年には1600万トンまで減少すると見込まれている。

短期的には、EU域内の生産量では同地域の砂糖需要量を賅えないことから、EUは引き続き純輸入国にとどまると見込まれるが、中期的には、砂糖生産量の増加と消費量の減少により、域内で砂糖需要量を賅えるようになり、砂糖の純輸出国になる可能性もあるとしている。

異性化糖については、代替需要を誘発するほどの砂糖価格の上昇は見込まれず、ゼロカロリー甘味料との競合の激化も予想されるため、生産量は今後緩やかに増加し、2030年には80万トン（2020年：60万トン、同年対比33.3%増）に達すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

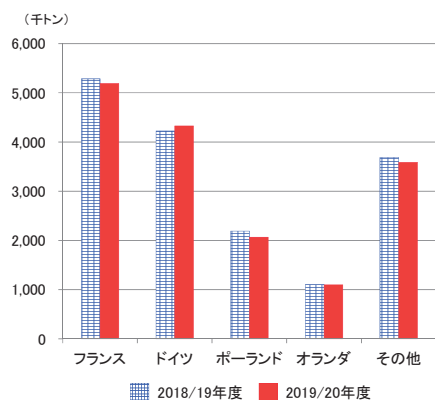
| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (12月予測) | 2020/21 (1月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|---------|---------|---------|---------|--------------------|-------------------|---------------|----------|
| てん菜収穫面積 | 1,624 | 1,599 | 1,517 | 1,475 | 1,474 | ▲ 2.8% | |
| てん菜生産量 | 130,930 | 104,385 | 109,781 | 94,322 | 99,755 | ▲ 9.1% | |
| 砂糖 | 生産量 | 20,353 | 17,082 | 16,940 | 15,267 | 15,266 | ▲ 9.9% |
| | 輸入量 | 1,566 | 2,349 | 2,230 | 2,551 | 2,577 | 15.6% |
| | 消費量 | 17,352 | 17,287 | 16,931 | 17,067 | 17,045 | 0.7% |
| | 輸出量 | 4,270 | 2,391 | 1,436 | 1,341 | 1,341 | ▲ 6.6% |
| | 期末在庫量 | 1,264 | 1,018 | 1,821 | 1,097 | 1,278 | ▲ 29.8% |
| | 期末在庫率 | 5.8 | 5.2 | 9.9 | 6.0 | 7.0 | 3.0ポイント減 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2020年12月時点)

EUの砂糖生産見通し

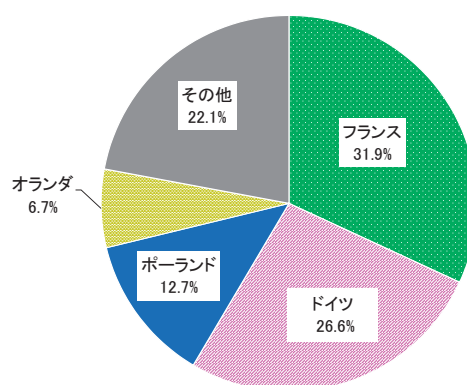


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会

注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2021年1月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、フィリピンおよび南アフリカの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（フィリピンは4月号および9月号、南アフリカは10月号および3月号を予定）。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）

生産量：3112万トン（同3.6%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：437万トン（同2.1%増）

輸出量：335万トン（同2.8%減）

2020/21年度の砂糖生産量は、わずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3112万トン（同3.6%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、サトウキビ生産量の増加も受けて、437万トン（同2.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。一方で、前年度の減産により期末在庫量（当期期首在庫量）が減少したことを受け、今年度の増産が輸出量の落ち込みをある程度補完するものと想定されるものの、輸出量は335万トン（同2.8%減）と、依然減少傾向が続くと見込まれている。

オーストラリア・トビバツタの大量発生を懸念

2021年1月13日付けの現地報道によると、クイーンズランド（QLD）州南部と、隣接するニューサウスウェールズ（NSW）州北部で、数年ぶりとなるオーストラリア・トビバツタ（Australian plague locust。以下「トビバツタ」という）の発生が確認された。豪州東部では近年の干ばつにより、この10年ほどの間、トビバツタによる被害は、ほとんど見られなかったものの、2020年12月頃から成虫の群れが目撃されはじめ、現在、それらの卵が孵化し、大量の幼虫が発生している状況にあるという。

オーストラリア・トビバツタ委員会（APLC）のクリス・アドリアンセン委員長によると、豪州東部では2009年と2010年を最後にNSW州とビクトリア州で広範囲にトビバツタの群生行動が確認されており、QLD州でも2008年以降、大規模な蝗害は報告されていないとしている。

この度の状況に対しNSW州政府機関であるロー

カル・ランド・サービス（LLS）は州内の農家に対し、トビバッタの飛来状況を注視し、被害に備えるよう促すとともに、農地所有者に対しては、被害のまん延を未然に防ぐべく、トビバッタの動きや被災状況などをLLSに報告するよう求めている。

またLLSの専門家は、今年は適度な降雨が発生し

ているところ、今後、夏から秋にかけて、より広範囲でトビバッタが大量に発生する可能性があるともみており、これらの地域ではサトウキビ生産をはじめとした農業全般が脅威にさらされる危険性があるとしている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (12月予測) | 2020/21 (1月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|-----------|---------|---------|---------|--------------------|-------------------|---------------|----------|
| サトウキビ収穫面積 | 376 | 379 | 364 | 361 | 361 | ▲ 1.0% | |
| サトウキビ生産量 | 33,344 | 32,493 | 30,044 | 31,098 | 31,123 | 3.6% | |
| 砂糖 | 生産量 | 4,463 | 4,717 | 4,283 | 4,364 | 2.1% | |
| | 輸入量 | 27 | 18 | 16 | 20 | 22.2% | |
| | 消費量 | 1,019 | 1,050 | 1,052 | 1,036 | ▲ 1.6% | |
| | 輸出量 | 3,590 | 3,562 | 3,449 | 3,344 | ▲ 2.8% | |
| | 期末在庫量 | 849 | 972 | 770 | 774 | 775 | 0.6% |
| | 期末在庫率 | 18.4 | 21.1 | 17.1 | 17.7 | 17.6 | 0.5ポイント増 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：139万ha（前年度比14.4%減）

生産量：7000万トン（同6.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：823万トン（同6.5%減）

輸出量：533万トン（同34.7%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前期作でのキャッサバなどの代替作物の収益性が高かったことから、今期作では代替作物がより多く作付けされたことにより、139万ヘクタール（前年度比14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表7）。加えて今期のサトウキビ生産量は、前期に続き干ばつの影響を受け、7000万トン（同6.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は823万トン（同6.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖の減産や在庫量の減少に伴い輸

出余力が低下し、輸出量は533万トン（同34.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

タイ産砂糖に対するアンチダンピング関税措置の導入の懸念

ベトナム政府は、2020年9月からWTO規則に基づくタイ産砂糖の輸入に対するアンチダンピング調査を開始しているが、12月22日付けの報道によると今後、アンチダンピング関税措置の導入が決定された場合、タイ産砂糖の需要を圧迫する可能性があり、関係者によると、一部のバイヤーでは、アンチダンピング関税措置として、税率が現行の5%から37.9%に跳ね上がる可能性があるとの見込み、既に第4四半期の購入量を減らす動きも見られている。

ベトナムでは2020年1月1日付で、ASEAN物品貿易協定（ATIGA）に基づき、ASEAN加盟国原産の砂糖輸入枠を撤廃し、2020年1月から10月にかけて、約115万トン（粗糖48万トン、精製糖67万トン）の砂糖が輸入された。これは前年同期のほぼ5倍の量に当たり、砂糖輸入量の急増を受け、

同国内の砂糖価格は下落し、砂糖生産量も減少している。2019/20年度の操業工場数は前年度比で11工場減少し29工場となり、今後も原料不足などの理由により、さらに4工場での操業停止が見込まれているとしている。

表7 タイの砂糖需給の推移

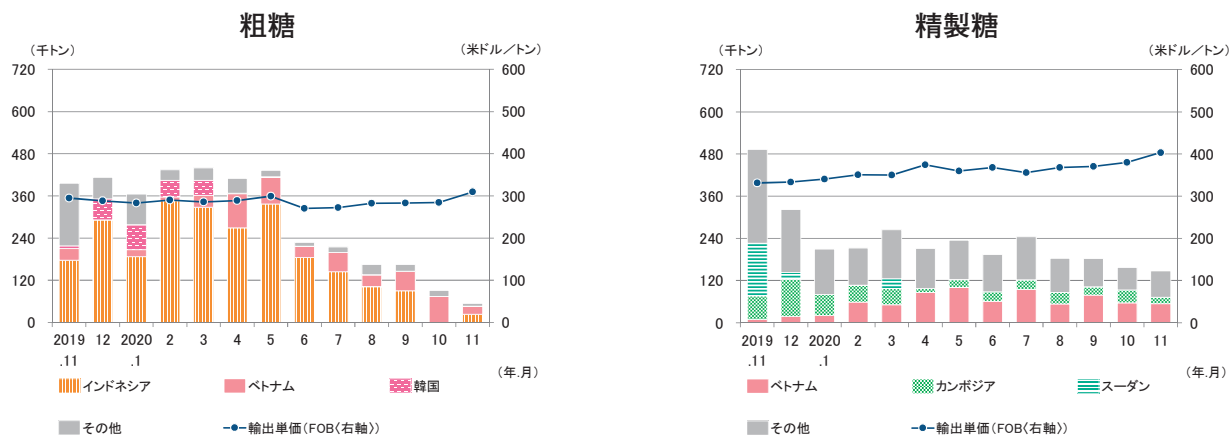
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (12月予測) | 2020/21 (1月予測) | 前年度比 (増減率) |
|-----------|---------|---------|---------|--------------------|-------------------|---------------|
| サトウキビ収穫面積 | 1,790 | 1,913 | 1,626 | 1,392 | 1,392 | ▲ 14.4% |
| サトウキビ生産量 | 134,929 | 130,970 | 74,893 | 70,000 | 70,000 | ▲ 6.5% |
| 砂糖 | 生産量 | 15,586 | 15,457 | 8,807 | 8,234 | ▲ 6.5% |
| | 輸入量 | 5 | 4 | 59 | 23 | ▲ 61.1% |
| | 消費量 | 3,434 | 3,737 | 3,773 | 3,646 | ▲ 6.2% |
| | 輸出量 | 9,820 | 10,113 | 8,162 | 5,430 | ▲ 34.7% |
| | 期末在庫量 | 6,289 | 7,899 | 4,830 | 4,227 | ▲ 12.7% |
| | 期末在庫率 | 47.4 | 57.0 | 40.5 | 46.6 | 47.6 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2021」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。